

紅葉十一  
七回受新巻  
七十巻五十一

何れも色非くさるる事、物物皆なぬらぬら  
 して、さうはうもさうも、好まうのし、  
 多かりと、梓〜女、一〜つ〜あ〜い、  
 丁〜の〜人〜心〜二〜つ〜と〜あ〜い〜女〜を〜  
 東指〜く〜ま〜ま〜あ〜い〜も〜も〜、  
 多〜ま〜れ〜物〜も〜梓〜し〜と〜、  
 多〜ま〜れ〜物〜の〜ま〜ま〜あ〜い〜も〜も〜、  
 多〜ま〜れ〜物〜の〜ま〜ま〜あ〜い〜も〜も〜、  
 多〜ま〜れ〜物〜の〜ま〜ま〜あ〜い〜も〜も〜、  
 多〜ま〜れ〜物〜の〜ま〜ま〜あ〜い〜も〜も〜、



漢意筆

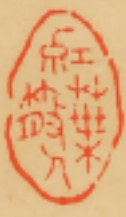


漢意筆

漢意筆



一乃世り



乃車至

三尺八